

アンパンマンよくばりボックスミニの修理

2024. 03. 28 ゆきや



「アンパンマンよくばりボックス」はこれまで
もしばしば修理する機会がありましたが、「ミニ」
には初めて出会いました。

元祖に姿形はよく似ていますが、こちらは五角
錐台形で高さ12cmほどのハンディータイプ、
手提げストラップが付いています。

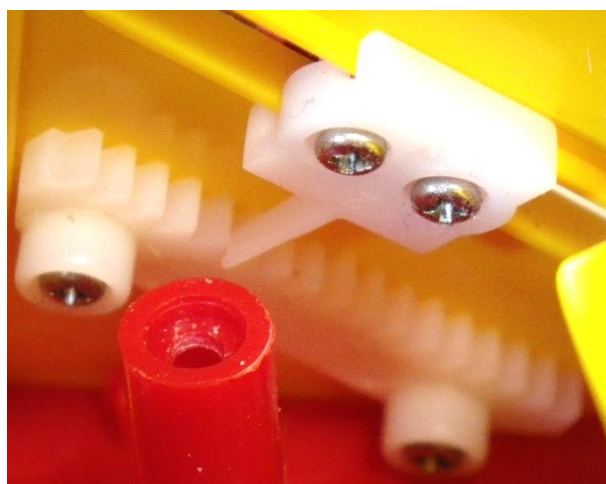
電源は使わず、押したり引いたりして、動きや
音を楽しむことができます。天辺のアンパンマ
ンを押すとピーピー鳴ります。バイキンマンは
どちらもガリガリ鳴る筈ですが、右側は音が出
なくなっていました。



底のネジを抜くと天辺のアンパンマンが外れ、
中はこんな風になっていました。

底にはアンパンマン用の鳴き笛が見えます。

右側はバイキンマンをスライドさせるとガリガ
リ鳴ります。

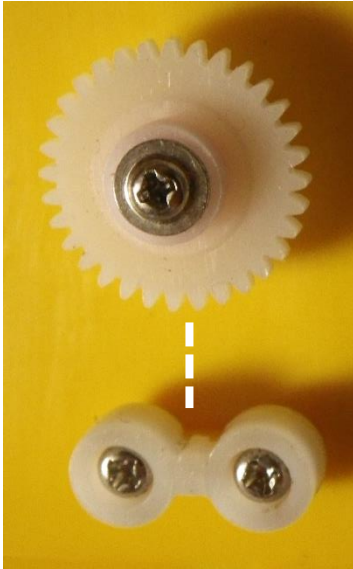


その仕組みがこれです。

ノコギリのような歯型を、爪で弾いてガリガリ
鳴らすという、大胆素朴極まりないものです。

なお、5枚の側面はそれぞれ下端の2枚の爪で
底面に接着されていました。

外そうにも、周囲が狭くてノコギリも突きノミ
も入らないので、マイナスドライバーの先をガ
ス火で熱して、押し込んで溶断しました。



もう一方のバイキンマンは、把手をつまんで回すとガリガリ鳴る仕組みです。

ノコギリ歯型は、こちらではピニオンギヤになっています。所が、そこでガリガリする筈の「爪」が無いのです。

下の無限大(∞)マークのようなパーツから、ピニオンまで伸びていた部品(点線部)が欠けて無くなってしまったのでしょうか。

パーツの中央部に、爪の折れた痕跡を見ることが出来ます。



さて、そんなパーツは手に入らず、推測で何か作るしかないでしょう。要はピニオンギヤの間に入り込んで弾かれる弾力のあるパーツです。

手持ちの直径 0.5mm のステンレス線で、初めに作ったのが、左側の写真です。丸い頭がピニオンギヤの間に入り込み、ギヤが回るとガリガリ鳴ります。鳴る事は鳴るのですが、時々ギヤから外れてしまいます。弾力性が災いしてしまうのです。



うのです。

そこで考えたのが右側、先端を2本角のようにして、ギヤを挟む形です。



元来の無限大型のパーツは使えないので外し、ワッシャーをかぶせて、タップネジで固定しました。

まことに素朴な作りですが、つまみを回すと、バイキンマンが、ガリガリとやかましく鳴ってくれました。